

私が走れない理由

校 長 武井 正明

私は左右の大腿部裏を肉離れしたことがある。
その両方とも巻東中時代。三十代の後半だった。

左大腿部は1997年6月、体育の自習監督の時。

グラウンドで子どもたちが走り幅跳びをやっていた。よせばいいのに、見ているうちに自分も跳べるような気になってきた。

こんなの軽いだろ。じゃ先生も跳んでみてよ。いいよ、まあ見てなって…。

模範演技よろしく、俺は鳥のように華麗にジャンプしたつもり、だった。

しかし跳んだ瞬間、左大腿部の何か繋がっている所がプツン、と切れた感じがした。

低空飛行後すぐに着地、記録は並以下の3m20くらいだった。

あれっ？先生、やっちゃってるよ、みたいな視線を背に受けながら、だいじょぶだいじょぶと平静を装った。しかしまともに歩くことができなかった。部活指導や何かではなく、自習監督で負傷した自分の軽率さを悔やんでも今更遅い。

翌日、弥彦陸上競技場で走高跳の役員を、座ってやっていた記憶がある。

右大腿部は忘れもしない、1998年の巻東中体育祭の全員リレー。

当時これに教職員チームも参加していた。その時の校長先生（吉中校長の大先輩です）は「とてもボクは走れないから」と固辞された。今自分がその立場になってみれば当然だが、当時は校長も走らなきゃダメでしょ、しょうがねえなあ、なんて思っていた。

そして全員リレーとなり、自分の番が来た。前に抜けそうな生徒がひとりいた。手加減など、端からする気はない。ここは追い越すチャンスだとコーナーに差し掛かった。

その時だ。

大きくコーナーを廻った時、予想以上に遠心力が自分に掛かった。次の瞬間、右大腿部の裏の肉が「プルン」と離れた。走りながら（ホントに肉って離れるんだ…）と思いながら、周囲には覺られないように、次の走者にバトンを渡すまで走り切ってしまった。もう恥をかきたくない一心で走った。それで更に悪化した。

体育祭が終わり、慰労会で飲んでいるうちに（酒飲むんだ!?!）右大腿部の裏は、内出血で真っ黒になっていた。帰宅して見てビックリした。

しかしそれでも振休となる翌日、足を引き摺りながら根性でゴルフをしていたのだからもう無茶苦茶というか、つける薬はないほどの大馬鹿者だった。結果更に悪化した。

というわけで、私は短距離走を走ることはもう、一生叶いません。

走る時はしっかりストレッチしましょう。中学生でも決して自分を過信しないように。

これがグラウンドで軽やかに走っている吉中生を見ると、いつも羨望の眼差しで見つめてしまう理由です。